

業務用

ビックリン

プロの使う洗浄剤はこんなにも効果が!!

現在カビ取り剤で使用されているのが「塩素系カビ取り剤」です。しかし、塩素系カビ取り剤は、多数の欠点があります。

- 人体や環境に有害で、そのニオイで気分が悪くなる等の報告があります。
- 強力=清潔というイメージがありますが、耐性菌が生まれてしまいます。
- カビを除去する際、カビの天敵である細菌まで除去してしまいます。そのためカビの繁殖しやすい環境を作ってしまいます。
- 泡が大量に発生するため、水をムダにし、作業に時間がかかります。

カビ・湯あか・カルキまで落ちます!

今までの液体クレンザーの欠点は、研磨剤の影響で汚れを落とす時に下の素材まで傷つけます。



『業務用ビックリン』は...

- 研磨剤を使わず落とす事で、対象物を傷つけずに、効率的に汚れを落とします。そのため、**今まで不可能だった鏡の鱗状痕やカルキも落とします。**
- 皮脂分解剤が入っているため、こびりついた皮脂分を柔らかく分解。研磨剤を使用しているような効果を発揮します。
- カビが苦手なアルカリ性。使用するだけでカビの生息しにくい環境になります。

成分はもちろん非塩素系なので、環境にもやさしく、食品を扱う台所でもご使用できます。

■ 業務用ビックリン 製品比較表

項目	ビックリン(液体クレンザー)	一般的な塩素系洗剤
分類	非塩素系	塩素系
カビ	◎ 良く落ちる	◎ 漂白・殺菌する
湯あか・水垢	◎ 良く落ちる	× 対象外
鏡の鱗状痕 カルキ	◎ 鏡への使用可 よく落ちる	× 対象外
洗い落ち方	◎ 良く落ちる	× 泡が落ちにくい ※落ちない泡がぬめりの原因になる
使用上の注意	特になし	ゴム手袋・マスク・メガネを着用 ※取扱には厳重注意



品名：業務用ビックリン
標準小売価格：1kg オープン価格
3.7kg オープン価格

髹染めQテクノロジー

〒306-0813 茨城県猿島郡五霞町元栗橋5971番地31
TEL.0280-80-0005 (代) FAX.0280-80-0006 (代)
E-mail:support@somayq.com http://www.somayq.com

裏面へつづく...

【業務用ビックリン】使用方法

【洗面台や鏡など】

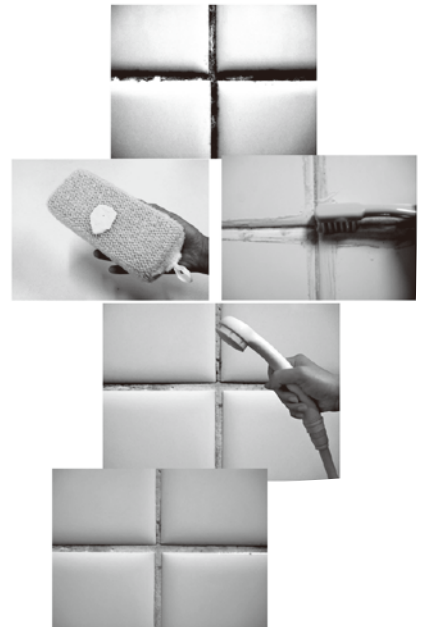
- ① スポンジに適量染込ませ、汚れ・カビをこすり落としてください。
- ② 水でよく洗い流してください。
- ③ 使用後はフタをしっかりと閉めて保管してください。

【天井や床など】

- ① スポンジに適量染込ませ、床にまんべんなく塗布します。
- ② 10～20分放置し、ブラシで擦ります。
- ③ 水でよく洗い流してください。
- ④ 使用後はフタをしっかりと閉めて保管してください。

【タイルの目地など】

- ① 目地に直接ビックリンを塗布します。
- ② 10～20分放置し、歯ブラシで擦ります。
- ③ 水でよく洗い流し区ください。
- ④ 使用後はフタをしっかりと閉めて保管してください。



※使用前に必ずよく振ってください。

※汚れ・カビのひどいところには、「ビックリン」を直接つけ10～20分程度放置するか、

またはメラミンスポンジ、歯ブラシを使用すると効果的です。

※深く浸透したカビは黒いシミが残る場合があります。タイル目地は白くするために弊社製品「目地ブラシ」をご使用をオススメ致します。

※ご使用後はカビの発生を抑えるために、弊社製品「業務用カビ封じ」、床の汚れを防ぐために弊社製品「防汚剤」のご使用をおすすめ致します。

【業務用ビックリン】 FAQ

Q1. どこに使用できますか？

浴槽、洗面器、イス、桶、タイル、目地、壁、床、排水溝周辺、シャワーホース、洗面台、蛇口、便器、タンク、鏡、流し台、調理台、調理器具、食器、排気栓。水で流せる所ならば、基本的に使用することが出来ます。

※塗装面、石材、大理石、銅・アルミ等の軟らかい金属、鏡、ガラス、フッ素樹脂加工面等はキズがついたり光沢がなくなることがあるので、必ず目立たないところで試してから使用してください。

Q2. どんな汚れを落とせますか？

カビ、水あか、湯あか、鏡の鱗状痕、カルキなど水場に発生するガンコな汚れを落とします。

Q3. 人体に影響はありませんか？

ありません。

通常、素手で使用しても問題の無い材料を使用しています

※皮膚の弱い方は、手袋を使用してください。

使用上の注意

●ご使用の際は、目に入らないように注意してください。●指定用途以外に使用しないでください。●使用後は手を水でよく洗い、気になるようであればクリーム等でお手入れしてください。●荒れ性の方は、ゴム製等の手袋の着用をしてご使用ください。●直射日光を避け、高温となる場所での保管はしないでください。●アルカリ性のため、酸性との併用不可